

第3回 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会 議事録（要旨）

- 1 日時 2020年8月3日（月） 14時00分～16時00分
- 2 場所 豊岡市役所本庁舎 2階 大会議室
- 3 出席者 ≪委員≫（委員名簿順） 18名中15名出席（欠席3名）
浅野 良一会長、中川 茂副会長、西谷 佳代委員、中島 章博委員、河本 美佳委員、西垣 浩文委員、宮崎 裕紀委員、二方 道正委員、平尾 洋委員、澤田 雅子委員、小田 知子委員、高階 正夫委員、増田 克志委員、加藤 勉委員、藤田 明治郎委員
（欠席）網木 直美委員、貝口 志保委員、木村 尚子委員

≪事務局≫

嶋 公治教育長、堂垣 真弓教育次長、飯塚 智士こども教育課長、木下 直樹こども育成課長、永井 義久教育総務課長、木之瀬 晋弥参事兼課長補佐、野崎 律男学校再編推進室長、細田 正徳係長、太田垣 輝尚主任

- 4 傍聴者 非公開につき傍聴者なし

5 主な内容

(1) 挨拶

浅野会長から挨拶

※内容については、「6 主な発言内容等（要約） (1) 挨拶」のとおり

(2) 議事

ア 報告事項

第2回審議会の補足事項について（資料1）

事務局より、第2回審議会において質問・意見のあった「小規模校の基礎学力」「小中一貫教育の類型」について、補足説明を行った

※委員からの質問等については、「6 主な発言内容等（要約） (2) 報告事項に対する質問等」のとおり

イ 協議事項

(ア) 市における適正規模・適正配置にかかる考え方の素案について（資料2）

(イ) 地域別意見交換会の進め方等（案）について（資料3）

※委員からの質問等については、「6 主な発言内容等（要約） (3) 協議事項」のとおり

6 主な発言内容等（要約）

(1) 挨拶

≪会長≫

皆さん、こんにちは。第3回の審議会です。今回は、地域の皆さんと色々な話し合いをするにあたって、審議会として少し踏み込んだ内容を検討する回となります。いよいよ本格的な内容の検討に入ってきます。ぜひ今回も、これまで同様、忌憚のない意見をいただいて、前に進めていきたいと思っております。

(2) 報告事項に対しての質問等

《会長》

前回の審議会で出た小規模校の基礎学力と小中一貫校・義務教育学校の制度について説明があった。質問や意見はないか。

(なし)

(3) 協議事項

ア 市における適正規模・適正配置にかかる考え方の素案について

《会長》

ここでは事務局から2つの項目について別々に審議をしていただきたいとの話があった。全体的話と個々の話を一緒にすると交錯するので、まずは全体的話をして、そこで意見をいただいて、次に個別の話に入っていきたい。

《事務局》

(事務局説明：資料2「豊岡市の学校適正規模・適正配置の考え方(素案)」について)

前回の審議会でいただいた意見を踏まえ、たたき台として、資料2「豊岡市の学校適正規模・適正配置の考え方(素案)」を事務局でまとめたので、ご意見をいただきたい。

《会長》

まず、協議事項の総論の部分、適正規模・適正配置の考え方の全体としてルールである。重要な部分が上がっている。前回の審議会までの議論を基に事務局で素案を作成していただき、今、説明していただいた。計画期間は、10年間にする。適正規模は、豊岡市では目指す姿としてこのように考える。通学時間は、距離ではなく1時間以内という時間で考える。再編の枠組みとしては、旧市町域内で考える。計画の進め方としては、とにかく複式学級の解消を最優先課題として進める。こういう考え方で地域別意見交換会を進めたいということであるが、これについて皆さん方にご意見をいただきたい。この後に各論について協議するが、まずは全体の考え方の案について、特に賛成・反対の意思表示をしながらご意見をお願いしたい。

《A委員》

竹野地域に関しては、私は賛成である。早くこのようになる方が子どもにとっても教職員にとってもいいのではないかと思う。

《B委員》

賛成であるが、但東中学校区のことを考えると、もう少し早くてもいいのではないかと思う。地域の方々がこれをどう考えられるか分からないが、私としては少し遅いのではないかと思う。

《C委員》

この計画を立ててこのスピードで一日も早くと思っておられる保護者もおられると思う。

適切ではないかと思う。

《D委員》

この全体の考え方については賛成である。ただ、地域に投げかけたときに、地域の感情をどう収めていくのが課題。やはり10年間でそれぞれ地域事情が違うが、もう少し早くできないかと思う。

《E委員》

私も賛成である。もう少し早くスピード感を持ってお願いしたい。

《F委員》

結論から言うと賛成であるが、速やかにこういった具体的な資料を地域に提示することと、地域感情が一番大きい部分になると思うので、前回見せていただいた、複式学級のリアルな映像を見ていただいて、速やかに、早くしていただきたい。資料では10年後も学校が存続できる地域もあるように思うが、本当に来年、再来年という地域のためにも、早く動いてほしい。

《G委員》

内容は賛成である。実際にこういうことを行うにあたり、小さいところが大きいところに吸収されるような印象がどうしても出てくるので、そのあたりの人間関係的な、感情面をどうしていくかが課題だと思う。大きいところは痛みがなく、小さいところが痛みを負うようなことでは、地域住民としては難しいところがあると思う。

《H委員》

私も賛成である。人数にしても20人程度でお互いに思ったことが言い合える学級ができればと思う。自分の意見がしっかり言える子どもに育てて欲しい。20人程度としてもらえたらありがたいと思う。人数や学級数も全て賛成である。

《I委員》

私もこの人数は適切ではないかと思う。少し気になったのが、通学時間が1時間以内というところで、50分や1時間とかかかる子どもが出てきた場合、バス通学などの手立てをしっかりと考えていただきたいと思った。

《J委員》

ある学校では1年生は2人しかいなくて、授業を見たら本当にかわいそうで、先生がつきつきりで教えているような状態。できるだけ早く統合すべきではないかと考える。

《K委員》

豊岡市の現在の状況、これから未来10年後のことを考えたときには、こういう考え方でや

むを得ないと思う。基本的には賛成である。

《L委員》

私も素案については賛成である。10年間でこの統合を考えたときに、どれだけの財源が必要なのか、どういった形で財源手配をしていくのか、もう少しきっちり出てこないか、統合をしようと思ってもお金がないからできないというような状況が出てこないかとの思いが若干した。そういう問題も一緒に考えていかないと、うまく前に進まないのではないかと思う。

《M委員》

たたき台としては適切ではないかと思う。通学手段の確保という部分も意見交換会でも出ると思うので、考えを持っておいていただけたらと思う。

《会長》

皆さんから一通り意見をいただいた。次に、具体的な枠組みについて、事務局から説明をお願いしたい。

《事務局》

(事務局説明：「学校再編枠組み(素案)」について)

地域別意見交換会で示す枠組みの素案について、適正規模・適正配置を図る手法として、学校を統合するとした場合の再編案のたたき台として説明させていただく。

この枠組み案については、現時点で内容を公開してしまうと、市民の不安感をあおる原因となってしまうことが予想されるため、「非公開」とさせていただきたいと考えている。

(異議なく一同了承)

《会長》

かなり踏み込んだ説明をいただいた。最後にお話があったように、地域別の説明会でこの話をして皆さんから意見を聞こうというものである。休憩をはさんで、委員の皆さんから2つのことについてご意見をいただきたい。1つは、この案がどうかということ、もう1つはこれを基に説明会をすることについて、特にご自身の関係する地域の案についてご意見をいただきたい。これを基に地域別意見交換会をするということについて、何か配慮事項があればお伺いしたい。それでは、一旦休憩に入る。

(休憩 14:50~15:00)

《会長》

会議を再開する。先ほど事務局より説明のあった素案について、意見交換会で出す上で、ここはこうしたほうがいい、これは消したほうがいいといった出し方について意見をいただきたい。特にご自身が関わる地域について意見をいただきたいが、もちろん、他の地域についても気になる点は言っていただきたい。

《A委員》

竹野は住民感情からいうと難しい面もあるが、スピード感を持って再編することは、子どもにとってはそれが1番ではないかと思う。いろんな課題があるが、統合を決めてから課題を一つずつ潰していく、みんなで考えてみんなで作っていくという方向のほうが良いと思う。この資料は、どの段階で出すかは難しいが、この資料を元に考えてもらうほうが良いと思う。

《会長》

再編案の枠組みについてはどうか。

《A委員》

これしかないと思う。

《B委員》

但東の再編案は、これしかないと思う。説明会としては、両案を示して、但東の方がどう感じ、どんな意見があるかを聞きながら、子どものためには将来何を目指しどう進めるべきかを考えたらいと思う。

《C委員》

港地区でいうと、このたび港小学校になるにあたって地域の方の話を聞かせていただいていると、中学校で部活動の種類が少なく選択できない状況について保護者や子どもたちの切なる声を聞いていると、旧市町域をまたぐため難しいことは分かるし、地域の方が地域の子どもたちに本当に丁寧に大切に関わっていただいていることは常々感じているが故に難しい事ではあるが、ここは進めていただきたいと思う。但東の認定こども園3園に関しても、子どもたちの数が減る中で、小学校の統合と一緒にしてくれというような声が前々から聞こえてくる場所ではあるので、ここも丁寧にしながら進めてもらいたい。ある認定こども園はずいぶん園児数が減っていて、保護者の方から少ないから他の園に行かせるなど、いろんな声が聞こえてくる。しかし、3園一緒にというところはなかなか難しい。でも、園としては、ある程度の人数が必要だと感じている。小学校と一緒に考えていただけたらと思う。

《D委員》

城崎・港の関係では、概ね、この再編案でいいと思う。ただ、地域感情としてどう受け止められるか。また、中学校の再編時期が適当かどうか。もっと早くいいのではないかと思う。小学校は、現状では人数的にもすぐということはないと思うが、最初からいづれこのように計画をして進めていくということで、市で考えられているロードマップをしっかりと話していただくほうが良いと思う。内容としては、仕方がないと思うが、この形で話していただけたらいいと思う。

《E委員》

竹野地域は、この再編案がベストだと思う。ただし、廃校となる側の住民の思いも考えないといけない。中学校の合併の時にも、豊岡北中学校との統合を望む意見も結構出ていたのがま

だ残っているようで、五荘小との統合を望まれる方も多いようだ。それは、保護者の勤務地が豊岡の方が多いので、竹野に向かうよりは、豊岡方面に走りたいという気持ちもよく分かる。中学校は、旧市町域をまたいだ統合についても将来的には視野に入れた上で動けたらいいと思う。旧市町域をまたいで中学校が統合すると前向きな感じがしていいと思う。ただ、その場合、竹野と城崎の間の鑄物師戻峠が交通の便でネックになるが、観光業の視点からも、トンネルを掘って城崎とつなげることも昔から案として挙がっているので、教育の立場からも後押しいただき、トンネルを掘っていただけたらと思う。

《F委員》

港、城崎、竹野という豊岡北部の流れだが、10年後にまた同じような状況になることが示されているので、最初に話して決めていく適正規模の基準を最優先に考えながら統合の再編案も作成していくべきと考える。2020年度よりも2030年度、2045年度、先のことを長期的に考えた中で、結論を出すべきではないかと思う。

《G委員》

現時点でも複式学級が生じている事態であり、今通学している児童生徒のことを考えると、どんな方法でもいいから、1年ですぐにやってしまいたい。資料を見ていると、選択肢があることはなかなか難しいと感じた。どちらの小学校と統合したいですかと聞いて結論を出すわけにはいかないと思う。どう説明するか難しいと思った。

《H委員》

先に2校で統合し、その後にまた別の学校とも統合するというのは、保護者からすると、また統合するのかと思ってしまう。保護者としては子どもの気持ちのことも考えると心配だと思う。別の校区についても、3校で統合することができないかと思う。5年後、10年後と時間はあるので、先のことを見越して考えてもらえたらと思う。希望としては、5年後、10年後ということであれば、真ん中に土地があれば学校を建てるなど、長いスパンでできるのであれば、通学のことでも考えてもらえたらと思う。資料を説明会で示してほしいと保護者としては思う。この先どの学校が統合するんだろうということの心の準備は親も子も必要だと思う。統合する、しないは先のことだからわからないが、こういう計画案があるということはきちんと知り、子どもと話していきたいと思う。

《会長》

質問だが、意見交換会では全ての会場で他の地域の資料も見せるのか。

《事務局》

基本的には、市全体の形と、再編の枠組みは該当地区で関係ある部分だけ提示する。

《会長》

関係ある部分だけ提示するということだが、どうか。

《H委員》

皆さんは自身の地区に関わる部分が一番知りたいと思うので、関係部分だけでもいいのではないか。

《 I 委員 》

子どもが0歳から4歳くらいの年齢になると、保護者からは新しい家を建てる話が結構出る。皆さん新しい家を建てる時に必ず学校区のことを考えておられる。この統合の情報は早めに公開された方がいいと思う。主人の地元に戻れば、子どもが進学する頃には、資料を見るとちょうど統合になる時期でびっくりした。この情報は早めに地域の方に知らせた方がいいのではないかと思った。

《 J 委員 》

私は、優先度が最も高いところは、一斉に統合した方がいいのではないかと思う。理由は、地元の方々には学校がなくなることに反対される方もあるので、「来年はあそこ、その次はあそこ」ではなく、「ここだけではない、ここもあそこも、みんな一斉に統合することになったんだ」という言い方をすれば納得するのではないかと思う。

《 K 委員 》

中竹野小では、就学前の保護者にアンケートを取ったところ、令和4年度から竹野小に行かせたいという意見がほとんどだったと聞いている。在校児の保護者もできる限り早く竹野小にという意見。それを受け、竹野南小も保護者が、うちも人数が少なく、遅れてはいけないという中で少し動きを見せている状況。地域の思いもあるだろうが、一番の主人公である子どものことを考え、その保護者の意見を聞きながら進めていくのが一番大事だと思う。

《 L 委員 》

35～36年前の出石の小学校の統廃合のことを思い出す。現行の小学校5校の改築を進めてきた。当時、3校案を出していたが、5校となったということで、危惧する部分がある。今回の素案で、いくつかの学校は相手方の候補が2校挙げられている。今2校案を出すと地域住民にしたらバラバラになってしまう。統合先の候補となる学校でも人数が減ってくる状況にある。それなら大きな学校に行きたいとならないだろうか。そういうことがおのずと地域でいろんな意見が出ることになるのではないか。地域の人と話をしたら、本音と建前の部分が必ず出てくる。本音では「統合は仕方がない」と言いながら、「昔からずっと守ってきた学校を守りたい」という部分が出てしまう。そのため、前回の審議会でも言ったように、PTAや区長会やコミュニティのみんなが集まり本音で話すような機会を作らせていく方法が必要だと考えている。教育委員会が「説明会に来てください」とやってしまうと、行政から下ろされたという意識になってしまう。そうではなく、コミュニティが核になって、そういう話をしていく必要があると思う。その上で、この学校はここに行くべきだと総体的になれば、その方向の協議会はありだと思う。しかし、もう一方の学校ももうすぐ人数が減る実態も出てくるので、その兼ね合いもある。相手方の2校案を出す方がいいのかどうか、今回、資料をもらって思った。

《 会長 》

2校案でなくどちらか1校案で出すということか。

《 L 委員 》

1校に決めてしまう。例えば、A小学校の統合を考えると、B小学校の児童数は減るが、A小学校と一緒にあればある程度の人数が確保できるという考え方で行くのであれば、B小学校との統合案を出す。しかし、A小学校の中でもめてくると思う。その時に、2案目のC小学校を選択肢として出す。初めから2案出すと地域がどうなるか、非常に気になる。どちらか一方に絞って提案したほうがいい。教育委員会はこの学校との統合を考えていますとするのか、どちらかにしてくださいと提示するのはぶれるというか、地域として判断が難しいことを提案することになる。

《M委員》

適正規模・適正配置は「複式学級の解消」「20人程度以上」の2つの観点のポイントで、現在も複式学級がある学校は、早急にこういう方法で統合し、複式解消をすることが、まずもって子どもたちのためになるだろうと思う。その後、地域によってはさらに再編で小学校・中学校が統合し一貫教育をすることが、修業年限が9年の義務教育学校という思いが強いが、そんな学校もできたらと思う。こういう話は案として出していただいて、地域で議論のスタートを切って欲しい。案がないと議論も始まらないので、しっかりとした案を提示して、どこが声を上げるのがいいのか、コミュニティが言った方がいいのかわからないが、コミュニティもそこまで責任持てないし、やはり教育委員会から言ってもらわないと仕方がないと思う。ぜひとも、議論のスタートを早めにして欲しいと思う。

《L委員》

もう1点、地元の小学校では、先日からコミュニティの会長と、将来小学校の子どもが少なくなることはみんな分かっている中で、ではどうするか、という話をコミュニティで話してくれということを言っている。そこまで責任は持てないという議論の中で、そこで責任を押し付けようとは思っていないが、コミュニティの会長名で区長やPTAを呼んだ中で討議をしてはどうかと打診している。5年先になったら必ず複式になってくる。その時になってから気をもんでも仕方がないから、早めに仕掛けるように、議論をしていくべきだという話をしている。幼稚園の統廃合の時に、何年も前から議論も何もできない状況があって、これは区長で決めないといけないということになって、区長たちで相談して統合で行くと決め、幼稚園の保護者の方も呼んで、スッと動いた経過もある。何かそういう議論をしていかないと、ああでもない、こうでもない、という状況が出てきてしまう。

《N委員》

資料の説明の際、資料2の計画の進め方については、なぜこの計画を策定するのかという目的からスタートして適正規模や適正配置の話をした方が、流れとしてはいいのではないかと思う。それから、複数案が示される学校について、地元の方がいずれも隣接している地区でどう考えられるかということだが、相性もあると思うが、両案は出すにしても、教育委員会としては、例えばD小学校でいえば、E小学校は単独でも存続できるが、F小学校は単独であれば2030年度には60人程度になってしまうので、1学級のところで複式学級の解消を最優先に考えると、できればD小学校はF小学校との統合を目指すべきだ、という考え方もある。一緒に

ならなければ人数が減ってくるので、そういう設定が必要かと思う。案は両案を示して、どちらの意見も言って話をした方が1つの案を出すよりはいいと思う。別の校区では、まずは中学校の統合を目指す。そうすると、小学校においても、中学校が一本にまとめれば、小中一貫はまだ先とはなっているが、それらを睨んだ動きができるので、中学校の統合を目指して、並行しながら将来的にはこうだという説明ができると思う。また、1つの学校が短い期間で統合を何度も繰り返すことは好ましくないので、一度にまとめるという考え方が必要だと思う。地域の相性のことがあるが、過去に確執があった地区もある。当時のことを知る方々は、納得できないとの意見も出てくると思うが、そこは原点に戻り、「今いる子どもたちのことを考えてください」と押し切らないと収まらないと思う。

《会長》

いろんな意見をいただいた。気になる意見で、事務局として取り込める意見は取り込んでいただきたい。1つは、私たちが議論している目的が何なのかということを確認してから資料に加えて欲しい。そして、複数案でいくのか、単一の案でいって議論を進めるかということ。そしてもう1点、この審議会でも再編案を示しているが、今後は地域の皆さんからの意見を自ら集約して出すような仕掛けをすることを要請するような意見である。今回の意見交換会に関して議論いただきたいのは、複数の案で行くのか、単一の案で行くのか、それとも全ての組み合わせで行くのか、いろいろやり方はあるが、一長一短あると思うが、そのあたりはどうか。先ほどご意見いただいた委員からもう一度ご説明いただきたい。

《L委員》

例えば人数が減っていく学校を存続させるのかどうかという観点で、そこに複式学級のある統合の対象校が入ると人数が増え、その学校もより存続につながる。その中で、2つ案を出して、大きい学校に行く案に流れた場合に、教育委員会はそれでいいのか、ということである。

《会長》

3校一緒にするという案を出したらどうかということか。

《L委員》

3校一緒ではなく、どっちかにということであれば、どちらか1校の案にすべきではないか。3校同時は難しいと思う。

《会長》

それでは、どちらの案がいいか。

《L委員》

そこは、教育委員会として、小さい方を残すという考え方でいくのか、将来的に3校案にするということであれば大きい方にすべきだと思う。そのあたりの判断が求められると思う。地域によっては2つ案を出すといろんな意見が出てしまう。

《会長》

そのあたりは、事務局はどうか。

《教育長》

一般論として、これまでから計画を立てて説明しようとしたときに、提案が1本であれば「もう決めているのか」「この会は何なんだ」という意見がある。一方、複数の案があると「リーダーシップをとって決めなさい」「教育委員会が言えば決まるから」という意見がある。今回どうするかについては、市長とも協議をしながら、今回の計画は、市民の皆さんと意見交換をしながら策定することを目的にしているので、複数案を提示しながら、委員が言われたような情報を提供し、それぞれの案の考え方を示しながらどうでしょうかと問いかけて、意見を集約していきたい。教育委員会としては、併記で行きたいと考えている。

《L委員》

ある地区の状況から言うと、昭和の大合併で旧町に合併する前の旧村は3つの集落で1つの村であった。現在の自治会にしても何にしても旧村でひとつのエリアになっている。そこで旧村とは違う地区の案を出されると、旧村意識から言うと、行政が違う地域に行かせようとする計画案になってくる。旧村のつながりが強い部分がある一方、現在の保護者については旧村でなくても大きい学校に行きたいという部分で相反するところが出てきてしまう。それを最終的にどのようにまとめていくかということも含めたりして、そうすると教育委員会としてこうなんだという部分はもっておいた方がいいと思う。

《会長》

教育長の話を見ると、最初から教育委員会の腹が見えてしまうと不愉快だという気持ちも強いように思う。あえて旧村の関係がないというところでも、別の案として考えているということは出した方がいいように思うが、どうか。

《L委員》

そのように結論付けて出したらいいと思う。そういう問題も含んでいるということでお聞きしたい。昭和32年の町村合併なのでかなり経っているが、但東にしても出石にしても旧村意識が残っている。その中に打ち込んでいくとしたら、現代の人はそうは思わないが、昔の人からしたら変に感じると思う。

《会長》

その辺も十分配慮して取り組んでいくことにしたい。今回の意見交換会について、委員からのご提案もあったが、今回の原案をベースにするということによろしいか。原案で行くことについて決めたいので、賛成の方は挙手をお願いしたい。

(全員挙手)

ありがとうございます。それでは、今後開催される意見交換会では、この原案を基に示してご意見を伺いたいと思う。

イ 地域別意見交換会の進め方等（案）について

《会長》

それでは、地域別意見交換会の進め方について、説明をお願いしたい。

《事務局》

(事務局説明：資料3「地域別意見交換会（素案）」について)

前回、開催方法について説明をさせていただいた。今回、当日資料のイメージの素案を作成

したので、開催方法や内容についてご意見等があればお伺いしたい。

《会長》

説明があったように、保護者向けと地域向けを分けることと、説明会ではなく意見交換会であることを強調し、ご意見をいただいて審議会にかけるということになる。意見交換会に向けて、こうやったらいいのではないか、こういうアイデアもあるよということなど、ご意見をいただければと思う。

《D委員》

資料の中で、今回の流れの目的を資料の最初に出さないと、いきなり計画期間となっていて、こういう日程を進めていくことについてという話に受け取られてしまう。今回の適正規模・適正配置の意見交換会の開催に至った経緯、目的を最初にしっかりと説明した上で説明していただいた方がいいと思う。

《N委員》

直接、意見交換会で話をして欲しいということではないが、地域の方との意見交換会ではお年寄りの方も参加される。その方々から発言があると思うが、学校と地域との関わりがある。今ではコミュニティセンターがあるが、昔はなく、人々が集まる場所は学校しかなかった。そこで、現在のコミュニティが行われていたという現実があった。また、明治の初めに文部省が国民皆学で学校を作るようにお触れを出した。口は出すがお金は出さない状況があり、自治体もお金がないので、最初の学校は地元の人々が土地を提供し、山の木を切り校舎を建てたりしていた。私の母校の記念誌を見てみると、同じ村の中に4つか5つ学校があって、明治31年頃に現在の位置に建て替えられたが、学校を建てるのにも延べ5千人くらいの地区住民が関わったと書いてあった。意見交換会ではそういう話が出てくると思う。現在の長老は、それらは経験されていないが、自分のお父さん、おじいさんの話を聞いていて、その意識が強いと思う。それはそれで事実であり、感謝しなければならない。しかし、そう言われたとしても、ひるんではいけない。あなたのお孫さんたちが今こういう状況にあるから、これをなんとか変えたいので応援して欲しい、という強い意志を持って臨んで欲しいと思う。

《会長》

確かにそのとおりである。事務的に説明してさようならでは、あまりにもひどい話である。今、委員が言われたように、子どもたちのためには、これなんだと、わかってくれと、そういった姿勢だと思う。特に事務局の方にはその認識を持って挑んでもらうことを期待したい。これは、委員の方も一般の参加者として参加してもらうことは問題ないか。

《事務局》

まだ日程が決まっていないので、日程が決まったらご案内させていただく。委員の皆様には、できれば各自の地域で一般の参加者として参加いただきたい。

《F委員》

意見交換会の案内について、聞いていなかったという方が必ずおられる。周知の方法をよくよく検討していただきたい。特に生まれたばかりの子ども保護者や、小さい子どもたちの保護者にも行き届くようにしていただきたい。地域の方から意見が出ると言われたが、皆さん結構前向きである。言われる方に限って、そこの息子さんは地元に戻っていない。だからあまり言えない。今お孫さんがおられる方々は、子どもたちのことを優先で考えて欲しいとお願いすれば、まずもって優先に考えてもらえる。ぜひ、勇気をもって一步を踏み出していただきたい。

《E委員》

保護者と地域の回を分けるのであれば、生まれたばかりのお子さんの保護者も、情報が届くように押さえて欲しい。先ほど意見もあったが、何で今この意見が出てきてこの会に至っているか、何で急に？と皆さん思われるので、そういう話があった上で今回開催に至ったという道筋と、何を指すのか、児童が減っていく尻ぬぐいをするための統合ではなく、豊岡市がこういう方向性を持って明るい未来のために統合を前向きに進めていく、というストーリーをしっかりと書いたほうがイメージしやすいと思う。

《会長》

他にご意見はないか。なければ議事としては以上となる。

以上